

伝統芸能から人間ドラマを楽しむ 特別短期講座

テーマ : 第8回 『髭櫓』(狂言)～夫婦のかたち

日時 : 2023年12月13日 9:20～16:20

講師 : 北見 真智子 先生 (大阪音楽大学講師・音楽学)



狂言について

南北朝時代に発生したセリフ劇

＜能と狂言の比較＞

能	狂言
謡や舞などの幽玄美を第一とする歌舞伎	庶民の日常的な出来事で客を笑わせる喜劇
華やかな装束と能面	簡素な装束と直面
室町時代以前の昔の事柄を題材に	現代劇、あるいは社会劇

狂言の歴史

狂言の起源(きげん)は、奈良時代に中国大陸から伝来した散楽(さんがく)にその元となるかたちが見られ、しだいに日本化した。

(散楽とは物まねや寸劇(すんげき)、曲芸(きょくげい)や踊りなども含む芸能の総称)

滑稽なものまね・寸劇→人物の設定、簡単な筋書き、単純な演劇、ダジャレなどの言葉遊びで庶民の間で人気を集める。



＜室町時代＞から＜江戸時代＞

能(歌や舞を中心にした悲劇的)と狂言(セリフを中心にした喜劇)が交互に上演されてきたが、次第に流派が確立される。

※ 大蔵流 ※ 鷲流 ※ 和泉流

＜明治時代＞

明治維新によって幕府が消滅し、後楯を無くした狂言は危機に陥る。鷲流が途絶えてしまう。

狂言の流派

＜大蔵流＞

大蔵彌右衛門家(宗家)、山本東次郎家、善

竹十郎家は、武骨で様式的な芸風が特徴。

茂山千五郎家、茂山忠三郎家、善竹彌五郎家は、柔軟で写実的な芸風が特徴

狂言の種類

分類名	内容	代表曲
福神狂言	大黒様や恵比須様などの神様が、毎年参詣に来る熱心な信者の前に姿を現して福をさすける。	『福の神』 『夷大黒』
百姓狂言	年貢を納めるために上京する百姓をシテとする狂言。	『筑紫奥』
果報者狂言	果報者(金持ち)をシテとする狂言。	『末広かり』
大名狂言	主人とその召使い(太郎冠者)が中心になって繰り広げられる狂言。大名がシテ。	『萩大名』
小名狂言	太郎冠者がシテの作品。 男の総称「太郎」+元服した成人を意味する「冠者」=成人男性A	『棒縛』 『縄綱』
贅狂言	結婚後、贅が舅の家に初めて挨拶へ行く儀式を描く。	『二人袴』

分類名	内容	代表曲
女狂言	愛情も憎しみも行動も強烈な夫婦喧嘩を描く。 わわしい=やかましい、騒がしい、ろうるさい	『鎌腹』 『千切木』
鬼狂言	怖くない鬼が登場。	『節分』
出家狂言	僧が主人公の狂言。強欲な出家者。	『無布施経』
山伏狂言	自分の法力を誇示する山伏を情けない存在として描く。	『菌』
座頭狂言	盲人を主人公とする作品。	『月見座頭』
舞狂言	能のパロディ。夢幻能形式に倣った構成。	『通円』
集(雑)狂言	以上のいずれにも分類しがたい曲。盗人やすっぱ(詐欺師)や商人、動物類。	『釣狐』

狂言『髭櫓』あらすじ

大髭が自慢の男は、それを認められ、宮中の大嘗会(だいじょうえ)に犀の鉾(さいのほこ)の役[儀式に用いる木製の鉾を持つ役]に選ばれた男は大喜びで妻を呼び出します。衣装を新しくこしらえると聞いた妻は、貧乏でそんな余裕はないから役を断るように言い、しまいには全てその髭があるからいけない、剃り落とせと怒ります。腹を立てた男は妻をさんざんに打ち据えます。横柄な態度の夫に妻も負けてはおらず、近所の女房たちと示し合わせて押し寄せてきます。大きな毛抜きを持った妻を先頭に、長刀や槍、熊手を持った女房たちが登場し、夫は髭が隠れる櫓を首からかけ防戦します。いったん夫が女房たちを追い立てますが、逆襲され、最後は妻が毛抜きで髭を抜き高々と差し上げて勝ちどきをあげます。

